

第25回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会  
～大学からの自然史情報構築・発信の現状と問題点～

日時：2015年8月31日（月）13時30分～17時（13時開場）

場所：国立科学博物館 上野本館 日本館2階 講堂

主催：国立科学博物館

共催：NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク

国立科学博物館では現在、全国の博物館・研究機関の自然史標本情報の整備・発信を推進すべく、S-Net（サイエンスミュージアムネット）・GBIF事業に取り組んでいます。

S-Netでは、おかげさまで、これまで360万件のデータを公開しています。しかし国内の関係機関の中でも、大学関係（大学博物館を含む）から提供いただいている標本データは現在までに12館28万件と全体の一割未満であり、今後、大学関係の方からデータ発信にご協力いただきたいと考えています。

S-Netでは、毎年2回、自然史情報発信についての研究会を行い、博物館・大学関係の方々に参加していただいております。そこで、今回は、「大学からの自然史標本発信」というテーマで、大学関係の方々にお話ししていただくことになりました。大学からの標本情報発信には、博物館からの発信とは異なる問題があると考えられるため、これらの課題について皆様と情報共有させていただきたいと思っております。

＝ プログラム ＝

- |             |   |
|-------------|---|
| 13:30-13:40 | イントロダクション<br>細矢 剛(国立科学博物館)  |
| 13:40-14:10 | 北海道大学総合博物館の標本資料データベース構築、多すぎる問題点—<br>昆虫コレクションを例として—<br>大原 昌宏(北海道大学総合博物館)   |
| 14:10-14:40 | 東京大学総合研究博物館での標本資料データベース構築とその公開発信<br>—昆虫コレクションを例として—<br>矢後 勝也(東京大学総合研究博物館) |
| 14:40-15:10 | 鹿児島大学総合研究博物館における魚類標本データベースの構築<br>本村浩之(鹿児島大学総合研究博物館)                       |
| 15:10-15:40 | 休憩  |
| 15:40-16:10 | 総合討論  |
| 16:10-17:00 | 情報交換会   |